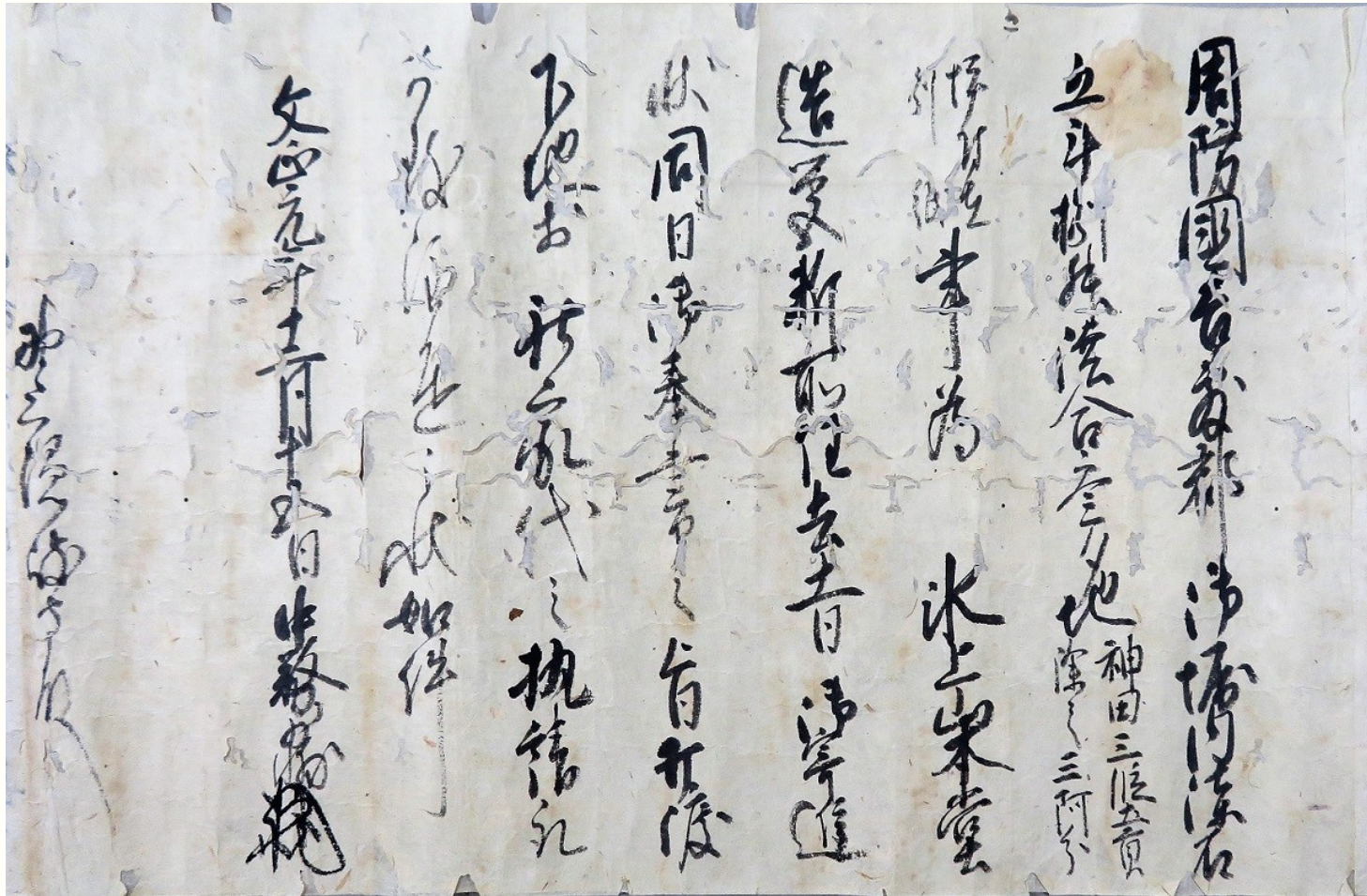


陶弘房遵行状

複写資料181



造営費用を賄う土地を確かに渡すように！

陶弘房（?～1468）が、周防守護代として小守護代の野上景忠に大内氏の命令を伝えたものです。☞解説シート①

陶氏居館址

参考1



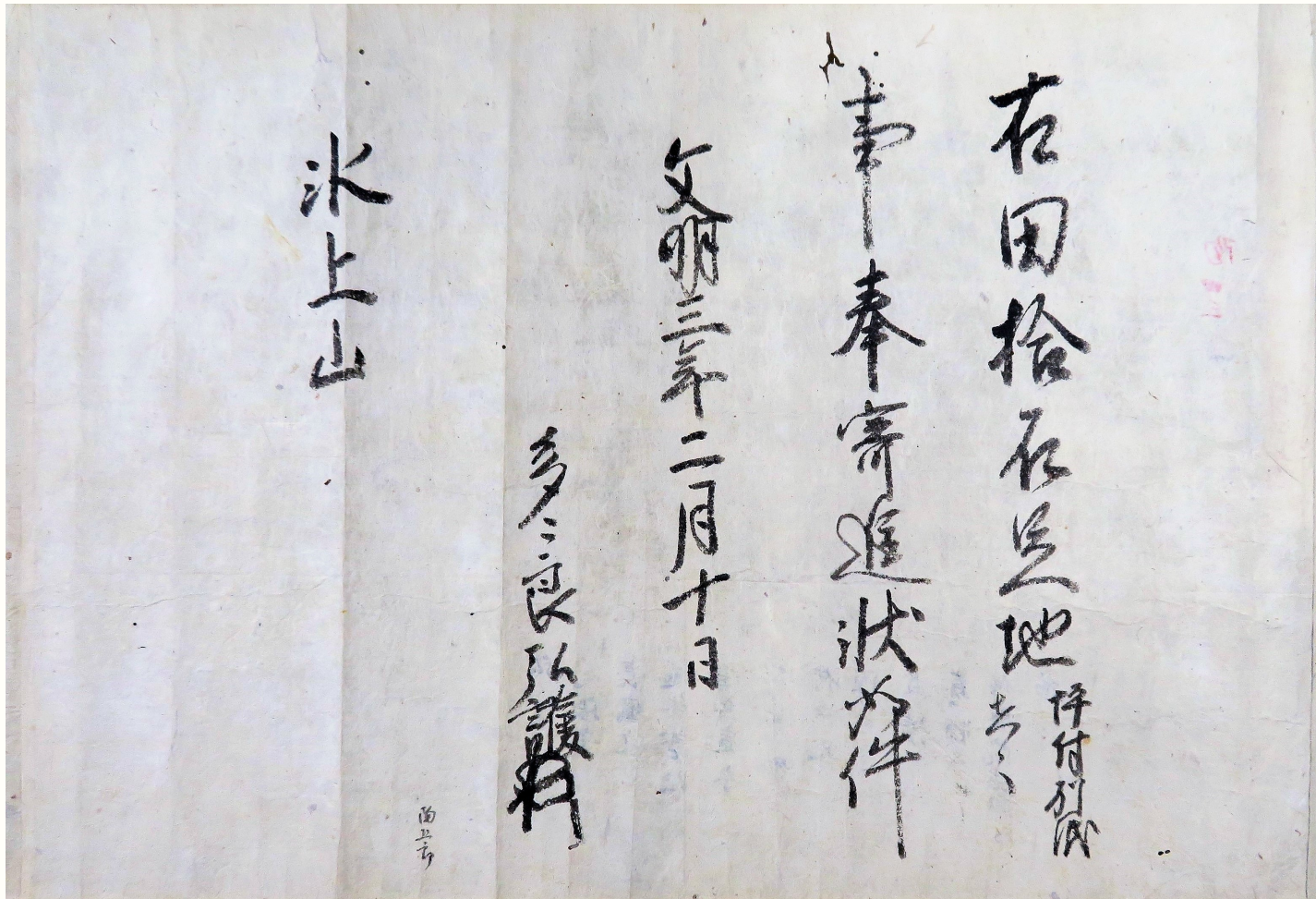
陶氏居館址の碑（周南市下上）

この石碑は、陶氏が南北朝期以降に本拠とした館を構えていた地に建てられています。ここには、明治～昭和40年代に徳山市立富岡小学校が置かれていました。現在は、周南市の富岡公園と菊川公民館富岡分館の敷地となっています。

なお陶氏の居館は、山口にも置かれていました。現在クリエイティブ・スペース赤レンガ（山口市中河原町）がある一帯にあったと伝えられています。

陶弘護寄進状

複写資料181

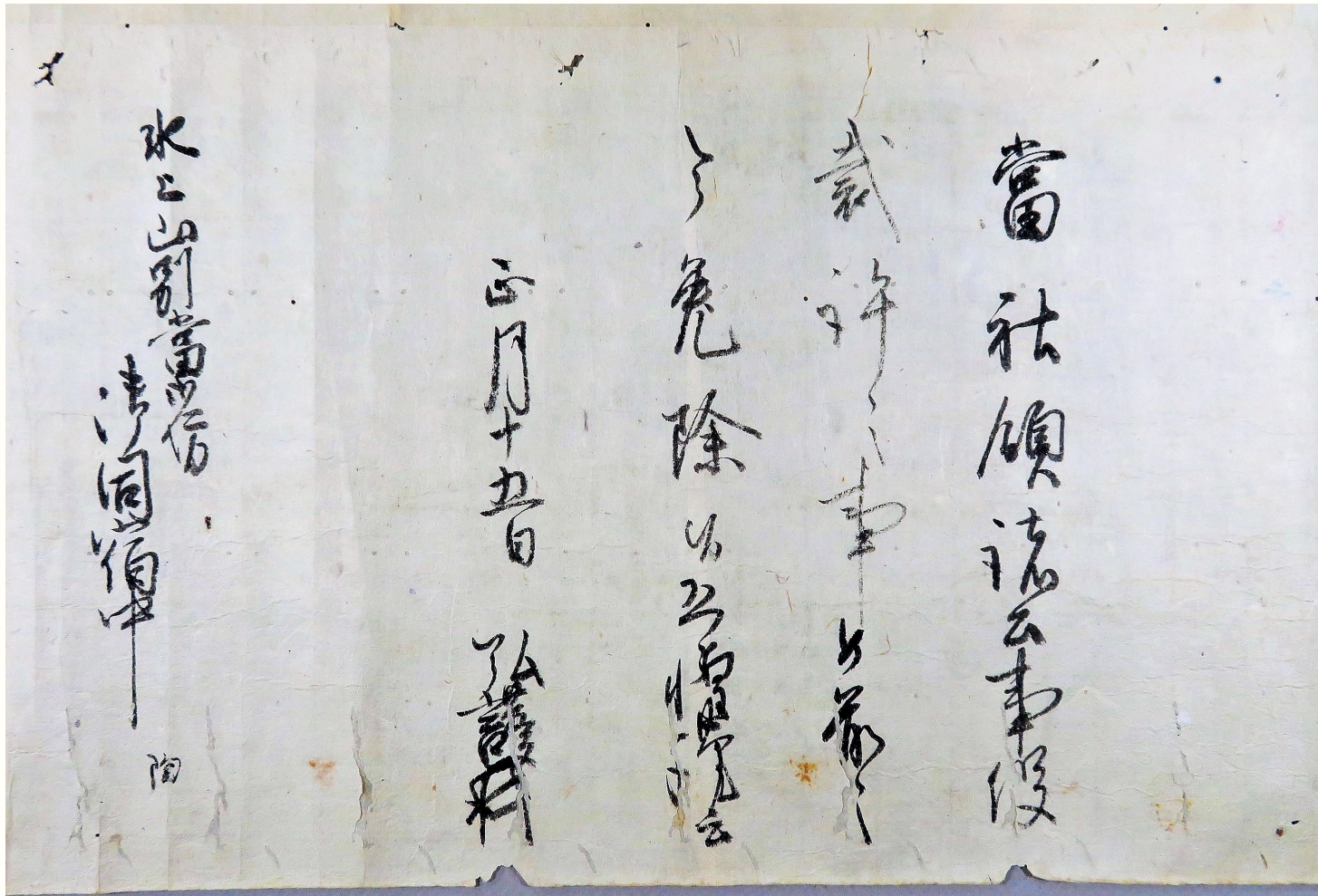


土地を寄進します！

陶弘護（1455～82）が、大内氏の氏寺である氷上山に伝えたもの。陶氏が「多々良」姓を名乗っている事例です。☞解説シート②

陶弘護書状

複写資料181



税金を免除します！

陶弘護（1455～82）が、大内氏の氏寺である氷上山に伝えたものです。☞解説シート③

陶弘護肖像写

近藤清石文庫 5

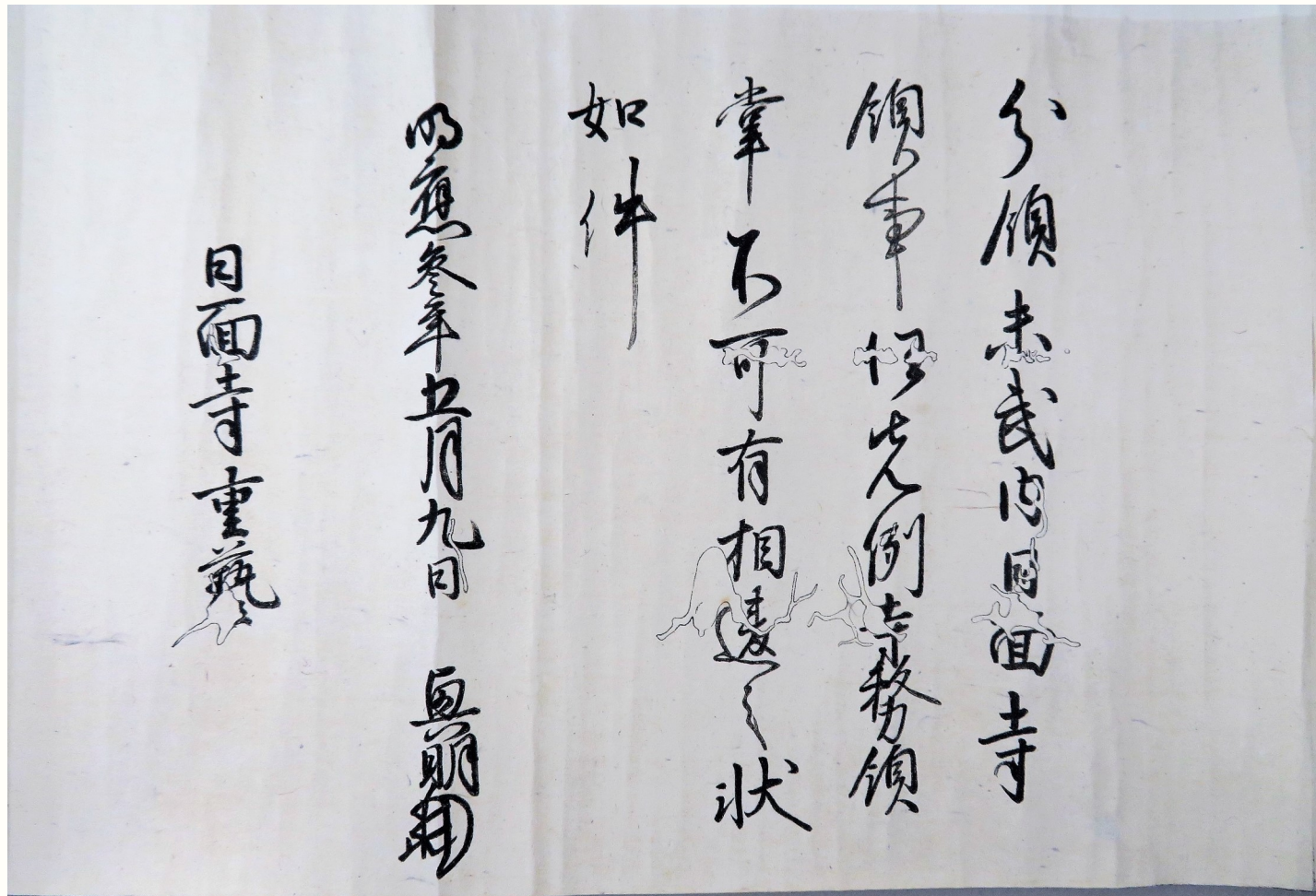


近藤清石筆「陶弘護肖像写」

大内氏研究の先駆者である近藤清石（1833～1916）が模写した「防長古英雄肖像」の中に収められている陶弘護の肖像画です。原画は、弘護の妻の菩提寺である龍豊寺（周南市大道理）所蔵の「絹本著色陶弘護像」（重要文化財。周南市美術博物館寄託）です。この画は、恰幅の良い、武将としての弘護の姿を伝えており、多方面で活躍した近藤清石の画才の片鱗をもうかがわせます。

陶興明安堵状影写

軸物135



土地の所有を保証します！

陶興明（1477～95）が、陶氏当主として日面寺に約束したものです。☞解説シート④

陶興明供養塔

参考2



陶興明供養塔（周南市下上）

昭和55年（1980）度に徳山市が実施していた社寺文化財調査の過程で、同市横矢の地藏堂から、銘が刻印された宝篋印塔が発見されました。その後、この調査の中心メンバーであった徳山大学の播磨定男氏により、この石塔が陶興明のものであることが明らかになりました。こうして、これまで全く注目されることがなかった幻の当主である陶興明の存在が再発見されたのです。この塔は、現在は海印寺の境内に移されています。また、興明の供養塔は龍豊寺（周南市大道理）にも遺されています。

なお左隣は陶興昌の供養塔です。興昌は陶興房の嫡男で、その後継者と目されていましたが、家督を嗣ぐ前に25歳で病死しました。もし、興昌が健在であったならば、隆房（晴賢）が陶氏の当主となることはなかったかもしれません。